

## 藤井裕久民主党名誉顧問に聞く3

二〇一三年八月二三日（金）

港区白金台の事務所にて

聞き手

尾崎美千生 元毎日新聞政治部副部長 高連協参与

堀内正範 朝日新聞社社友 「月刊丈風」編集人

昨年一〇月四日には議員会館におたずねした。一二月一六日の総選挙で民主党は大敗。藤井先生は退かれたため、一月一八日は雪の残る白金台の細道をたどって事務所におたずねした。その後、民主党は七月二一日の参院選にも敗れた。ふたつの国政選挙に勝って、自民党の安倍首相は「脱デフレ脱却」のため「異次元の金融緩和」に着手し、オリンピック招致の追い風を受けて、「消費税増税」実施という「歴史的」局面を迎えようとしている。

・「藤井裕久先生の叙勲受章祝賀会」のこと

地元相模原の有志の人びとが中心になって旭日大綬章の「叙勲受章祝賀会」をおこなうことになった。

日時 平成二五年九月一六日（祝日） 午前一一時

会場 小田急ホテルセンチュリー相模大野

藤井先生がお世話になったというだけに経済界、政界、マスコミ界、ご友人など三〇〇人余の錚々たる方々が臨席される。マスコミの人は大事なことで、尾崎・堀内もご招待の声を掛けていただいた。（二〇一三・九・九 記 堀内）

（九月一六日の会のお話があった）

◎いま歴史から何を学ぶのか

藤井…とどこできょうは何ですか。

尾崎…ことは夏が暑かったから、先生どうしておられるかなと思って。ぜんぜんお変わりないですね。

藤井…つい最近、『東京新聞』に出たんですがね。ぼくが原爆づくりに引っ張り出されたという話。

尾崎…原爆づくり？

藤井…こういうことなんです。昭和一九年に、これからは若いヤツに原爆をつくらせなければダメだというので、中学一年生から三年生までを選んで、「特別科学組」と称するものをつくったのです。それにぼくは引っ張り出されて、中学（東京高等師範学校付属）に入ってから二〇年五月に金沢にいったのです。旧制の第四高等学校です、いまの金沢大学。嫌だったのは、東京にいる連中は死ぬ覚悟なのに金沢にいくということ。命が助かるということでした。一年で三角関数・微分・積分をやりました。そのとき原子核は仁科芳雄それから藤岡由夫がいた。それが講義をしにきて「君らは新型兵器の尖兵だ」なんていって。

堀内…仁科さんのことは聞いていましたが、藤井先生にそんなことがあったのですか。

藤井…これが新聞記事です。八月一五日の『東京新聞』に出ました。

尾崎…これまでに紹介されたことはあったのですか。

藤井…あります。戦後六八年、日本が平和だったのは「戦

後レジーム」によるのに、自民党がやってきたそれを「脱却する」というのは、自己否定です。安倍（晋三、首相）のようなことをやってはダメだといっております。アベノミクスは経済ですが、これは歴史観が間違っているという話なんです。

尾崎…藤井先生はアベノミクスに対して批判的だから。

藤井…批判的じゃなく大反対。

堀内…たったお一人でなさっている。

藤井…最近、ドイツ連邦銀行が「あんなものが続くわけではない」と言っています。

堀内…『朝日新聞』にも小さな記事ができました。

藤井…それです。ドイツ連銀はそうみている。ドイツ連銀は政府からは独立した立場を守っている。もうひとつ、麻生（太郎、自民党副総理）のユダヤ発言については『プレス民主』に書きました。麻生は基礎的教養がない、四年前にも「未曾有（みぞうゆう）」なんていって話題になった。

尾崎…K・Y（漢字が読めない）といわれた。

藤井…あのととき、ある会で司会者の小島慶子が「わたしも学習院だけれど、学習院の女性はもっと教養があります」なんて、会の終わったあとに言った。

堀内…文人とまでは言わないまでも、政治リーダーは、え？と言われるようなことを言っただけじゃありませんね。

藤井…いけません。ドイツはヨーロッパ諸国には詫びていませんが、ユダヤ人に対しては終始詫びています。安倍は先輩を裏切っています。「戦後レジーム」をつくったのは自

民党と多くの良識ある国民です。それをぶち壊すというのは許せないことです。

尾崎…最近もメルケルはお花をあげて謝っています。

藤井…メルケルは謝っているのに、安倍晋三は「侵略ではない」なんていっている。

堀内…それは国際的には通らないルール違反ですね。

藤井…世界からボイコットされてしまいます。斎藤（邦彦）元駐米大使と話したのですが、「ストロングライト」といわれているじゃないかと思ったら、「その件はもう解決しました」という。ことばでは解決したけれど、「超国家主義者」であるというレッテルを張られてしまっている。こんな総理はつづくわけがない。アメリカも含めて国際的に批判されている。とくに中国や韓国は、これはもうダメです。安倍ではダメ。三年間、選挙をやらないのなら、自民党でいいからもっとまっとうな人物を出せ。

堀内…まっとうな人というと。

藤井…わかりません。が、そう言わないと。

尾崎…どこで言われたのですか。

藤井…TBS（日曜「時事放談」）で言っています。このあいだもいいました。「TPP」はやれ。デフレでもなんでもない。有効需要をつける手段としては、国内は少子高齢化の見直し、それに規制改革で農地の改革も大事。外に対しては高度成長をつづけている新興国に対して、わが国の科学技術や匠の技術を提供して、新興国の成長力ももたらさる。安倍さんのたた一つのいいところは、「TPP」に積極

的なことだけ、後はみんなダメだ。

堀内…国際的孤立はいけませんね。昭和六年の満州事変のときにも。

藤井…そのとおりです。今度の本(『劇場型デモクラシーの超克』中央公論新社)で早野もいつています。この本は差し上げます。

尾崎…ありがとうございます。

堀内…セミナーで加藤(陽子、東大教授)さんが言っていたのは、国際的に孤立しないこと、同時に世論がそれを支持してはいけないということ。いま世論が・・。

藤井…それです。山本七平が「空気で動く」社会はこわいといった。当たるか当たらないか、わからない。はずれたのが戦争で、今がそう。それはこのあいだTBSで言いました。「空気で動く」社会はこわい。

堀内…先に申しあげますが、マスコミの問題。

藤井…それは言いません。早野に「マスコミはなぜ墮落したか」で話してくれるよういつたら、「メディアはなぜ戦争を止められなかったか」にしてください、と。

堀内…国際的に孤立しながら世論がそうなってしまつと、もう戻せない。

藤井…そうです、戻せない。今度の会でもそれは言うつもりです。わたしの残った人生で「平和」だけはやると言っています。

堀内…お願いします。

### ◎「異次元」の経済政策のゆくえ

尾崎…安倍さんは歴史認識の問題もありますけれど、アベノミクスの効果は。

藤井…金融で経済をよくするというのは全部失敗しています。吉野俊彦という日銀マンがいますが、かれがキンドルバーガーの本『熱狂、恐慌、崩壊』(日本経済新聞社)を翻訳したのですが、いま熱狂の初期なのです。金融を甘くするとかならずそうなる。すでに年金生活者は疎外されていますが、いまワツショイ、ワツショイやっている連中がかならず自殺するんです。熱狂したヤツが崩壊する。なぜかというとはまりこむと人間は最後までいく。山一証券がつぶれた。あおった方が倒産している。人間の恐さです。半分以上はもう二度とあんなのに乗りませんといい、あと3半分はうまく逃げますという。それができたら死にはしない。死んだのはみんなそう思っていたけれど、人間の弱さなんです。

堀内…人間だけではなくて、組織・団体もそう。

藤井…不動産業界と証券業界、これがいま燃えている。燃えている業界がかならずつぶれる。山一がそうでした。もうひとつ(三洋証券)、それに北海道拓殖銀行。必ずそうなる。それを吉野俊彦はキンドルバーガーの本を翻訳することで説明している。

堀内…アベノミクスについて、いろんな人がさまざまいうけれど、どこかで評価したり認めたりしている。藤井さんだけでした、はっきりダメといつているのは。

藤井・愛川欣也から『東京新聞』を読んだといつて手紙がきましたよ。自分はアベノミクスなんておかしいなと思つていながらも、みんなが評価するものだから若干いいのかと思ひかけていた。あなたの文章でやっぱりダメなことがよくわかりました。そこはだれかがいわないと。

堀内・その発言は大事ですね。テレビをみていて、藤井さんよくぞといつて拍手しましたよ。

尾崎・これから月給があがるという期待があるが。  
藤井・あがりません。もう終わっています。いまダメな人はもうダメ。いい人がこれからダメになる。熱狂の初期だといいました。選挙も終わりましたから間もなく熱狂も中期にはいらいます。末期は来年に。ですから崩壊は来年だと思ひます。安倍はつづくわけがない。石原信雄（元内閣官房副長官）も今度の会にきませんが、安倍は歴史観で間違つてつぶれるといつている。ぼくはそれより早く、金融でつぶれると思つています。そっちが早い。というのは、自民党はかれの歴史観の誤りを抑えている。

### ◎民主党の党内情勢について

尾崎・民主党の党内情勢はどうなのですか。

藤井・外には言いにくいところだけれど、こういうことは言つていきます。第二党であることを忘れてはいけません。第三党はどこかといえ、選挙区では共産党、比例区では維新の会です。世の中だれも一党だけでいいとは思つていない。差はあつても第二党がその責任を負わなければなら

い。それは君らなんだと言つています。与党のときなげ負けたのか。野党体質が抜けきらなかつたからだ。

ひとつは若い連中が革命だといつた。革命と改革は違う。革命はぜんぶをひっくり返すことで、そんなことを世の中の人は期待してはいない。

二番目は議論だけしている。税調で言いましたよ、そんなにしたいのなら大晦日に初日の出までやるぞ。議論をするのが与党じゃない、議論は大事だけれども、決めるのが与党なんだ。

三番目に役人との付き合いで間違つている。みんなテレビでいいましたよ。自民党は一党でしたから役人の上に乗つていた。野党としてそれを批判するのはいいけれど、こちが与党になったときには役人を使わなければならない。4 それなのに、役人は敵だ敵だと言つた。これが世間から批判を受けている。自分からは言いにくいけれども、わたしはチーム藤井で、横にかならず事務次官とか担当局長を置いて、われわれが決めたからあと君たちだよ。

堀内・実務を継続するのはあの人たちですからね。

藤井・野党体質としてもうひとつ、鳩山（由紀夫、元首相）の話もしたのです。鳩山が普天間のことをいつたのは正しい。大田（実）海軍少将の話もしましたよ。「県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ」といつて自決されたのに応えることは正しい。しかし野党のときの癖で、ひとこといえばそれが通ると思つている。わたしは佐藤栄作、田中角栄に秘書官でつかえたけれど、佐藤栄作は後半にもやっていないと

いわれるけれど、沖縄を返してもらうために民主党のジョンソン、共和党のニクソンとの間で根回しをずっとやってきた。これが与党と野党との違いだ、とこれもテレビで言っています。つまりは野党体質からきているので、いま残っている本流の連中はわかっています。野党体質は二度とあってはいけません。第二党といってもいまは差があります。けれども民主党ができたときは支持率四、五%だった。自民党は三〇%あった。でもひっくりかえったのです。与党の経験をしたのだから、まじめにやりなさい。尾崎…それを先生がおっしゃったのは、参議院選挙のあとですか。

藤井…前から後までずっと言っています。

尾崎…自民党だけになったのではまずい。

藤井…おっしゃる通り、それはみんなそう思っています。一強何弱といわれていますが、わたしは個々のテーマで協力するのはいいけれど、合わせてもまた割れる。だから中核になるのは民主党なんだよ。

堀内…与党の経験をした人が経験を大事にして。

藤井…小沢グループは最後までグジュグジュ言って出ていった。そしてみんな負けたので、あれは片付いたのです。まだ片づけなければというのが数人残っています。あまり党内のそういうことには関与しないようにしていますけれど。ひとつ海江田（万里、代表）に言ったことは、麻生のユダヤ発言だけは許すな。そう言ったらすぐに反応してくれました。「言語道断」とかいって。『プレス民主』に書いて

てくださいといってきたのは海江田からでした。

尾崎…海江田さんは大丈夫ですかね。まことにやさしい人だけれども。党首としては。

藤井…漢学の素養があつて、及川古志郎みたいところがある。及川は日独伊の三国同盟の推進者で、米内光政が徹底してあの野郎といった。

堀内…海江田さんから最近、色紙をいただきました。「氷心玉壺」。氷のような澄明な心を玉の壺に収めているという友誼の思いを伝えることばとして。

藤井…わかる。

堀内…フェイスブックに「四字熟語」の欄をつくって載せていますから、中国の人にもわかる。

藤井…及川古志郎だなと思うところがある。学があつても判断を間違えることがある。三国同盟に賛成したというところで、海軍トリオといわれた米内、山本、井上らは反対したわけですが、及川が賛成に回ったものだから米内は烈火のごとく怒った。

尾崎…先生のような人が言わないとだめですよ。

堀内…これはご本人の前で言うのは失礼かもしれませんが、選挙で自民党への国民の支持は増えていない。今回は選びようがなくて、じっと見ている有権者が数多くいた。とくに若いころに安保や学生運動をやったり見たりして高齢者になった人びとは、みんな元気でアクチブです。その人たちは、民主党を見えています。相当な数の有権者が自民党ではない日本の将来の姿を掲げる再生民主党を見えています。

参議院から衆議院に移ってご苦労されてきた藤井さんの動向を見ている。その人たちの期待は海江田民主党ではなく、藤井民主党です。

藤井…新しい政治の本流ですよ。今度の会には野田佳彦と自民党の野田毅を呼んでいます。野田毅もインテリ。党の偉いのは呼んでいないけれどもかといったら、行きます。尾崎…現実には若い人ではだれが。

藤井…ほんとうのことをいいますと、いずれ野田の時代がきます。もう一人、奈良の・・・。

尾崎…馬淵（澄夫）。あれは使ったほうがいい。

藤井…副をつけて使っています。本会議場で田中角栄を礼賛したのはあれしかない。「わたしは田中角栄さんを尊敬しています。田中さんは自分で法律をつくった」。

尾崎…藤井さんもそうお考えですか。

藤井…そうです。裏では飲んでいきますよ。「お前の時代はかならずくる。ただしトップじゃないぞ」。セカンドでいい。セカンドにしっかりとしたのがいれば、党はしっかりとする。トップはだれにするかは別ですが。いまの官房長官の菅（義偉）と同じ。いまの内閣でいいのはあれだけ。やっぱり叩き上げなんです。馬淵も叩き上げ、だから角栄さんのことを尊敬している。菅もそうでしょ、金の卵です。

尾崎…海江田さんとカンボジアへいっしょに行ったんですよ。こっちにお墓がありますよ、といったら、そっちへいくのをやめよう。子どもみたいなどころがある。

藤井…民主党はいま評判が悪すぎます。かならず戻ります。

もう底です。まじめにやっていたら、リアクションでかならず戻ります。

尾崎…松下さんの政経塾には政治家を育てるのに何か問題があったのですか。

藤井…松下さんでなくてその後の人が政経塾を悪くしたと思います。松下さんは人間を語っているはずですよ。技術的なことは政治家より役人のほうが上です。人間として尊敬されれば、かならず政治家のいうことを聞くのですよ。屁理屈をこねるよりは人格者だと思つたらいいことを聞きます。塾は茅ヶ崎ですから選挙区内で、関心はありました。よくは知りませんが、松下さんは人間を育てようとしたのだと思います。野田はその一期生、神奈川知事だった松沢は三期生。そこいらは松下さんから習っている。一〇期生とかになると、選挙に勝つにはどうすればいいかといった選挙技術だけを教わっている。そんなことは塾をつくって教えることではない。

尾崎…前原（誠司）は？

藤井…あれは八期生かそこいらでしょう。中田（宏）、あれが一〇期生。

堀内…屁理屈の組ですか。

藤井…理屈をこねる術を教えるというのは、たしかに外国にはあるでしょうが、松下さんはそうではないと思う。

尾崎…人間学でしょう。

藤井…そうです。

堀内…塾をつくった趣意は初期の段階で終わっているの

すね。創業者がいなくなると。  
藤井…会社であろうと政党であろうと、創業者がいちばん偉いのです。

### ◎一強自民党と対抗する政策

尾崎…次は三年くらい選挙がないといわれていますが、民主党はいつごろちゃんとするのですか。

藤井…徐々に徐々にです。

尾崎…一〇年かかりますか。

藤井…かかりませんね。まず安倍が失敗しますから。石原信雄さんは、得意とするところで失敗するといっているけれど、ぼくは経済政策だと思っています。安倍には憲法改正はやってもらいたくない。三年間、自民党がつづくのでしようが、憲法の議論をするにしても、もつとまっとうな人がいます。その人にやってもらいましょう。

尾崎…共産党と維新。こういうところといつしよにやってみるのでしょうか。

藤井…テーマごとに政策協調。いつしよには絶対なりません。また分裂するだけですから。

尾崎…部分連合みたいな。

藤井…部分連合までいかない。憲法反対とか賛成とか、それでいい。

尾崎…二つの政党とすると、政策の柱としては何があるのですか。憲法ですか、環境ですか。

藤井…そういうものではなく、これは民主党は正しいと思

っています。働く人とか消費者とかを主体に考える。一方、自民党は企業経営者を主体に考える。これは相当大きい違いと思います。雇用の問題でも、「安定」といったのは公明党だけで、特に自民党はどんどん変えるです。明治維新のときには士農工商が商になった。渋沢栄一がいますね。池田内閣のときには鉄をハンマーに。そういう時期は歴史にあるけれど、そうでない時期は安定していかないと。今度の選挙では「安定」は公明党だけで、あとはどの党も偉そうなこと、できもしないことをいっている。「維新の会」なんかは特に。できないことはわかっているのです。

尾崎…先生のおっしゃった働く階級の人たちと、資本家とどうか経営者の側とが二つの軸になる。

藤井…働く人と経営者ですね。経営者だってサラリーマン7です。働く人にすぎないのですが、やっぱりかれらなりの理念というか考えがある。企業が伸びれば社会がよくなるとする発想。たとえば池田内閣のときはそれなのです。下村（治）は「投資（investment）が命」といった。いまは違う。需要が足りない。過剰生産になっている。需要を

つけないといけない。国内では何だといえ、少子高齢化対策をしっかりとやる。あとは外へ出る。政府がやるうとしている企業減税とは違う。これは会社が利益を残すだけ。この一〇年間、働く人の賃金は落ちっぱなしです。それに対して会社は一〇〇兆円を蓄積しています。それを共産党みたいに悪のかたまりだとはいいませんが、これが企業の論理です。働く人に還元しておりません。

尾崎…働く人を主体とするそのあたりのお考えは、先生のこれまでの考えと違いを感じますが。

藤井…前からいつてはいました。まず「消費税増税」は絶対やらなければならぬ。なぜか。「社会保障」を安定させる意味で。還元する意味でこのままの「福祉」をつづけるためにはますます国債を増発せねばならぬ。そのためにもやる。働く人の立場で国内の需給のアンバランスを是正する。だから同じです。

### ◎将来の人口問題

尾崎…「少子高齢化」は盛んに言われるのだけれども、打つ手がなくて、みんな困っている。

藤井…そう思います。「高齢化」に対しては、ひとつは迂遠かもしれないが、六五歳でしごとをやめてしまうことを改める。少ないですが、七〇歳だって八〇歳だって働く人はみんな働いている。「少子化」は、子どもを産めなんていうのはいけません。産める環境をつくることはいい。

尾崎…家族政策みたいなものは必要ですね。

藤井…子どもを産んだら商品をやるみたいなのは絶対ダメですよ。何を考えているのか。

尾崎…合計特殊出生率で考えていっても無理です。人口が減る。二〇六〇年に八六七万人、やむなしになる。イギリス、フランス、ドイツにしても活躍している国は、六〇〇〇万人から八〇〇〇万人。わが国も八〇〇〇万人に減っても対応はできる。

藤井…限度はありますが、やはり移民ですね。日本の国粋主義はダメです。それに海外に出ていくのも大事。国境を低くする。

尾崎…移民は右翼がさわぐでしょうね。でもカネがあったら子どもを産ませるもひどい。

堀内…モスクワの「世界陸上」などスポーツをみていますと、ヨーロッパの国の選手は圧倒的に黒人。

藤井…若い人はフランスは黒人の国だと思っている。堀内…日本はそのところが違う。

藤井…純粋なのですよ。

尾崎…河合隼雄さん、亡くなりましたけれど、あの人と橋本政権のとき審議会でいっしょだったのですが、この会を増やすための会だけじゃかならずしも増やす必要もないのではないかとすでに「少子化」を言っていました。

堀内…増やすための政策的な努力はやった上でない。

藤井…日本が世界第二はやめるということです。人口の多いほうがGDPは増えますよ。一人あたりは別ですが。

尾崎…ドイツの人口政策は戦争です。フランスと戦争をやった。兵隊の数を増やせ、それで子どもの数を増やしてきた。

藤井…ドイツの偉いのはアデナウアーです。フランスに負けると今度はやつつけるといふ話になるのですが、EUはフランス主導でできたわけですけど、ジャン・モネやシューマンの構想にアデナウアーはすぐに乗った。これはドイツ人としては例外です。アルザス・ロレーヌの取り合い。



それをやめたのはアデナウアーです。東の吉田茂、西のアデナウアー。吉田茂はそれなりに偉かった。

### ◎平和裏に「地方の力」を活かす

堀内…「地方」の問題でおうかがいしたいのですが、田中角栄さんのすごいのは、平和の時代でしたが、地方に目を向けて開発をおこなった。

藤井…平和主義で民主主義という早野の評価ですね。

堀内…はい、セミナーでも言っていました。それは戦前の石橋湛山につながる。いま地方に目を向けて、地方の力をつけることが、平和裏に国を護る意識を醸成する。軍隊と対外的な対応に国民の意識が向かってしまうのはよくない。「歴史に学ばない」ことになる。ではどうやってみんなの力を「地方」へ向けていくか。ここがちよつとはつきりしないのですが。

藤井…むずかしいですが、ひとつ「農業」があります。いまの農業では国際的に負けてしまう。といって国境の壁を高くしてもダメで、土地政策ですね。われわれがやり出しているのでやってくれるとは思いますが、土地を公が買うなり借りて、公の力で貸す。それと「六次産業」ですね。堀内…そこですね。「六次産業」にすると産業育成になるし地域の特性が活きてくる。地域の特性がモノとして見えてくる。

藤井…これも亜流と思われるのですが、「観光」です。「観光」が大事なのは、農業の育成になる。魚沼産コシヒカリ

が観光できた人のみやげになる。「六次産業」の製品もそうです。地方を強くするのは、そういうものの地道な積み上げなんですね。

堀内…「観光」というのも、もつといろいろなものを見てくるといいですね。地元の人に出合ったり。

藤井…旅行者が儲かるだけではない。

堀内…そうですね。地域の問題として「農業」があり「観光」があり、あとは定年になって地域にもどった「元気な高齢者」が動いていない。これをどうするか。

藤井…それがむずかしい。ぼくらの友達も大企業で重役になったりしていますから、億という退職金をもらって地元へ帰って邸宅をつくるんですよ。でも付き合う相手がいらない。そこで新幹線で東京へ出てきて飲んでいる。

堀内…そこでは地方のためとはいえませんがね。

藤井…結局、そうなってしまっている。悪循環なんです。池田内閣のころですよね、みんな都会に出てきた。都会で生活をして、年をとったらやっぱりいなか生活がいいといつて帰る。家も建てた。しかし付き合うだれもない。なにもすることがない。

堀内…そこをなにするか。長年かけて培った技術、知識、それに資産を持っている人たちが地域にいるわけですから。そういう人たちが東京に出てこないで、長い高齢期を地域でなんとか楽しんで過ごす。

藤井…どうも男のほうがね、女の人是可以るのですよ。

堀内…井戸端会議。

藤井…男性は邸宅に住んで、新幹線で東京に出てくる。

堀内…国力の萎縮の原因はこれですよ。なんとかしてください。わが国が国民運動として地方をどうこうしていれば、国軍や憲法改正で動いているよりも「平和」で動いていることになる。そこで高齢者が動いていけば、「高齢社会」をつくっているなということになって、それが外から見える。韓国であろうと中国であろうと、そこについてとやかくいうことはない。日本の地域が強くなる。というか、活力が回復するわけですから。

藤井…いまの話は大事なところですが、決め手がない。

堀内…そこをなんとか。決め手をさがして。

藤井…とにかく池田内閣のときに、どっと出てきた。それがみんな独立して中小企業のかたまりになって、日本をつくりあげたのです。「くじけちゃならない人生が、あの日ここからはじまった」と井沢八郎の『ああ上野駅』の歌がありますよね。昔なんかその代表です。これらの人が日本を建て直したのです。みんな東京に出てきたわけですが、あのかたのときのことを考えれば必要で悪くはなかったのです。

堀内…その人びともう一仕事ですね。

藤井…帰る。

堀内…はい、ふるさとというか地域へ帰って。大きい家を建てすぎないで半分にして、あとの半分は地域にもどして。

### ◎「異次元」の実業を呼び起こす

尾崎…「健康大国」というのはいかがでしょう。どこにいて

もだれでも健康をいやがる人はいない。人口問題の故黒田俊夫さんがいつていたので、日本は世界一の長寿国になった。平均寿命は社会の関数ですから、要素を考えてこれを売り出したらどうでしょう。

藤井…それは、やり出していますね。まちづくりや健康事業も売っています。東南アジアなんかでは買い手がいっぱいいます。日本の国内の話ではないけれど。製造業だけではない、そういう事業はものすごく大事です。

尾崎…デンマークなんかでは隙間産業として人工肛門まで作って売っている。それで国の経済を潤している。

藤井…日本の科学技術は相当に高いレベルにあると思います。匠の技もいい。日本の料理はすごいです。製造業は大事です。しかしいまの製造業だけで円安でやればいいという発想がよくない。マイナスが大きいのですから。

尾崎…そこにアベノミクスの間違いがある。

藤井…基本的には間違いがある。円安にして製造業を伸ばす。昭和初期の「ソーシヤル・ダンピング」と同じ。働く人の給料を切って輸出を伸ばすというやり方です。円安で自分の国を弱くすることによって一部の企業・業者伸ばしている。基本的に間違っている。

尾崎…黒田（東彦）さんはまた緩和をすすめるればいいとかいつていますが。

藤井…黒田、あれはダメだ。わかっているんだと思います。安倍さんに言われた以上、刃向かうことはできないのだと思います。カネをばんばん出しておいて財政健全化はムリ

です。浜田（宏一）という学者と同じ発想になっている。堀内…何かやらなければ経済がもたない。そこで自分のところのできる「異次元」の金融緩和をやった。それに対応する実態を呼び起こす「異次元の政策」が掲げられなければ国民が動かない。「異次元の財政赤字」になりますね。藤井…浜田は湘南高校なんです。湘南高校出の友人がいるのですが、「あれは変人だよ」といっていました。ノーベル賞をもらえるようなのはどこか変人なのでしょうね。でも日本を悪くしては困るのです。尾崎…わかりました。藤井先生に久しぶりにお会いしたら元気になりました。藤井…元気を出してください。ひとつこの本を読んでみてください。

### ◎「歴史を学ぶ」セミナーのこと

尾崎…セミナーをやった岩見（隆夫）さんが肝臓ガンで慶応大学に入院した。藤井…かれもいい役割を果たしている。いい本を書いていきます、満州の話もいい。尾崎…ところでセミナーはやめたのですか。藤井…エンドレスです。国会開会中でないと議員が集まらない。秋の臨時国会が開会したらまた始めます。加藤陽子にまたやってもらうつもりです。エンドレス。この本は第三巻。いい先生はけっこういるんです。堀内…加藤さんは内容もいいですね。ただ東大で学生に教

えるように、早口で淀みなくなさるものですから、こちらはくたびれてしまう。尾崎…全学連だったという坂野（潤治）さんとは仲良くないのでしょう。藤井…弟子というのは本質的のところは引き継ぐでしょうけれど、おやじから見ると生意気ですよ。みんなそうなんです。このセミナーを七、八年前に始めたときは、坂野さんと三谷（太一郎）さんが助けてくれたのです。それが『歴史をつくるもの（上・下）』（中央公論新社）という二冊になっっている。三谷さんは宮内庁参与で団藤重光さんのような役割のしごとをしている。いい先生です。

### ◎議員年齢制限と「クオータ制」

堀内…昨年一〇月に議員会館にお訪ねしましたが、衆院選の日がどうなるかという微妙な時期でした。あのとき先生は遅いほうがいい。同時選挙よりもつとあと。今ごろということでした。藤井…そう、もう二、三カ月あと。堀内…ここまで引つ張れるかどうかということでした。藤井…野田が正直なのですよ。岸信介が大野伴睦に総裁にしてやるっていうて念書まで書いたのに、無視してへっちゃらだった。そこまで野田にも言ったのですよ。野田は正直なんです。尾崎…国会で、選挙やりますか、やりましょう、で降りちやった。

堀内…あれは政治ではない。

藤井…正直すぎる。相手との約束に対する信義なのです。

堀内…ここまで引つ張っていたら違った情勢になっていた。

藤井…もっと悪かったかもしれない。良かったかもしれない。そろそろですよ。

堀内…国民が増税の前に「社会保障」の内容についてしっかり議論する、そして選挙、で良かったのではないか。

尾崎…ぎりぎりまで引つ張ったほうが良かった。

藤井…選挙をすると世の中は動かなくなる。むかしはカネをばらまくから、世の中よくなるなんてバカなことをいったけれど。

堀内…選挙でほんとうに「社会保障」の内容を議論するならいいのですが。有権者となんの関係もない。

藤井…できもしないことをいうだけ。

堀内…それで数字だけが動いてしまいました。

藤井…おおせの通りです。だから一〇月でよかったです。尾崎…最近細川護熙さんとは。かれは現実の問題にはタッチしないのですか。

藤井…数か月ほど前に会いました。もっと出なさいよといっている。意見が同じなんです、まだ野田がやっている時期に野田しかいないといっていました。みんな日本新党なんですよ。

堀内…日本新党のときは大事な時期でしたね。たしか女性のための「クオータ制」をやった。高齢議員の「クオータ制」といっているのですが、もし参院選までにそれができ

ていれば、細川さん、藤井さん、福田さん、野中さん、河野さん、土井さんもいい。そういう人たちが参議院の後ろの席にきちんとかまえていらつしやるという状況がつかれなかったわけではない。

藤井…そうですね。細川さんは、釜をつくっているだけじゃありません。いろいろな意見をもっていますよ。木を植えるのもいい。チャーチルだって絵をかいていたのですから。

尾崎…民主党は次の選挙の公認は七〇歳以下にというのは、違うのではないですか。

堀内…「年齢差別撤廃」の時代の流れと「年齢制限」というのは逆じゃないですか。

藤井…若ければいいという意見は消えましたね。ここ一〇年で。若ければいい、ジジイやババアはダメだった。

堀内…振り子が行き過ぎました。若い人だけの議論では国政になりません。

藤井…世論は動くのですね。

尾崎…小選挙区制についてはお考えがとおりでしょう。

藤井…ぼくは小選挙区制論者ですから。自民党のときでしたが、選挙制度調査会で、羽田孜と後藤田正晴。そのとき羽田とか後藤田がいったのは、中選挙区制ではダメだ。自民党内から賛成と反対が通る。ところが東京へいくと党が反対を許さないという二人とも賛成になってしまふ。これでは選挙民を裏切ることになる。だから一人しか出さない小選挙区制に。それだけではないし、これまで選挙をや

ってきて、反対論者の意見も聞かなくてはならない。河野洋平さんまでそういう。

尾崎…先生にお聞きしたいのですけれど、近現代史のセミナーで、北澤（俊美）さんがいまの憲法があるので防衛大臣ができたという発言をしていました。

藤井…北澤ですか。羽田孜の弟子で、長野県の県議会議員です。安全保障調査会するとき北澤もいたので、大平正芳という先輩は精緻にして簡素な防衛力と言っていたと言ったら、北澤は困ったような顔をしていました。

尾崎…防衛大臣をやった人がはっきりと憲法九条の存在の意味について発言した。信念の人ですよね、会ってみたいと思っと思っています。

藤井…偉いですよ。言えないことです。今度、参議院議員会長に立候補して負けましたね。

堀内…セミナーでもかならずノートをとって質問をしますね。ひとこと自分のまわりのことをいってから質問をする。

藤井…あれは参議院議員の中ではまっとうです。

尾崎…それでは、きょうはこのへんで。長い時間ありがとうございました。

堀内…本ままでいただいて。

藤井…いつでもきてくださいよ。本は半分ほど読んでください。

止